

FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌

Vol.07



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

「一隅を照らす」

相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら
館長 坂野 浩一



2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大に、日本のみならず世界が震えた一年になりました。当館も3月3日から5月31日まで臨時休館を余儀なくされました。6月からの営業再開にあたっては、お客様のご協力をいただきながら感染防止対策を実施しての営業となりました。準備していた新規展示「水上散歩水槽」もやっとご覧いただくことができました。秋には来館者数も前年実績を上回るようになりましたが、残念ながら2021年1月13日より二度目の臨時休館となりました。

コロナ禍で、人と人が逢うこと・話すこと・食事すること等の“普通の暮らしを営む”ことが、実は私達にとって幸せで大切な時間だと痛感された方も多かったことと思います。私共も、営業再開後にお客様の笑顔に接して改めて、嬉しく温かい気持ちになり、水族館の仕事に携わっている喜びを感じました。

皆さんも、医師でありながら、アフガニスタンで25kmの用水路を作られ、10万人の農民の暮らしに貢献された中村哲さんをご存じだと思います。

中村さんが講演等で話された“一隅を照らす”という言葉があります。この言葉は天台宗を開いた最澄の教えのひとつで「一人ひとりがそれぞれの持ち場で最善を尽くすことによって、まず自分自身を照らす。これが自然に周囲の人々の心を打ち響いていくことで他の人々も照らしていく。そうしてお互いに良い影響を与え合い、やがて社会全体が明るく照らされていく」という意味だそうです。

2021年度も私共は、未来への希望を持ち続け、日々の仕事を誠心誠意行っていきたいと思います。

当館では、二度目の臨時休館の時期に、2つの新規展示と新たな解説イベントの準備をしました。これからも、“お客様がもっと笑顔になれる”施設を目指して、新しい展示水槽の設置やイベントに、スタッフ一同チャレンジしていきます。

Contents	はじめに	2
	One Aquarium	3
	水上散歩水槽	4
	エンリッチメント大賞受賞！	5
	地域連携の活動	6
	他団体・他機関との連携	8
	特別企画展	
	◇ねずみ展	10
	◇くつつく生き物展	12
	◇ふぐ展	14
	マンスリー水槽	16
	ミニトーク水槽	17
	水辺の生き物水槽	18
	海の生き物水槽	18
	小川の実験観察テーブル	19
	ふれあい田んぼ探検隊	20
	ものづくりワークショップ	21
コロナ禍の科学館	22	
指定管理者紹介ページ	23	



One Aquarium

～皆が一つになり、お客様に最大限の価値を伝えよう～

2020年度は当社にとって貴重な一年でした。「皆が一つになり、お客様に最大限の価値を伝えよう」を掲げこの難局に対し、スタッフひとりひとりが一つになって「One Aquarium」を実践しました。

当社は、指定管理者として現在2期目の2年目に入りましたが、2020年度をステップアップの年と捉え、まず第一弾として人ゾーンに新展示「水上散歩水槽」の展示を開始いたしました。残念ながら緊急事態宣言発出により臨時休館が続いたため、皆様へお披露目できたのは再開後の6月2日となりましたが、これまでたくさんのお客様からお喜びの言葉を頂戴し、館内アンケートでも高いご評価を多くいただいております。

また、2021年1月には地域活性化事業として、ステップアップの第二弾は同じく人ゾーンに「水生昆虫水槽」、「川原の石 みてみよう！」の展示を開始しました。いずれの展示も相模川をテーマとする、当館としての展示コンセプトに則ったものです。お客様からのラブコールも多く寄せられた展示もあり、皆様のご期待にお応えできると確信しております。加えて、新規解説イベントとして「水辺の鳥の解説（仮称）」の開催を予定しています。この解説は、疾病鳥獣保護の取り組みや、野生動物と人のかかわりにも目を向けることが可能となることも目的のひとつとしています。

最後になりますが2020年は一般社団法人日本水族館協会（JAA:Japan Association of Aquarium）の設立元年として本格的な活動がスタートしており、水族館業界が一体となり、また当館も自らが源となって水族館業界発展に向けてけん引して参ります。

【施設概要】	
施設名	相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら
特色	相模川の生き物や自然をテーマとした水族館
指定管理者	株式会社江ノ島マリンコーポレーション 新江ノ島水族館（神奈川県）、世界淡水魚園水族館（岐阜県）運営
所在地	神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
敷地面積	15,722㎡
総飼育水量	約100トン

新展示 水上散歩水槽

波多野 順

当館の人気水槽に仲間入り

2014年からスタートした指定管理者期間も7年目を迎えるにあたり、更なる満足度の向上や、これまでの感謝を含めた地域還元施策の一つとして、新規の展示水槽の計画を立てることになりました。そして、これまでにない生き物たちの見せ方に拘った展示作りを目標とし、魚たちを真上から「見る」、水の上を歩いているような「体験」、川の水源のような透明感や青さを「感じる」というコンセプトを考えました。株式会社スプリングの協力を得て、2019年2月16日から工事を開始し、幾多の難題や困難を乗り越え、当館人ゾーンに「水上散歩水槽」をオープンすることが出来ました。

この水槽の特徴は、①水槽の上を歩ける、②真上から魚たちを観察することができる点が挙げられます。水槽のガラス天板は、水面が接する構造になっており、まるで箱メガネで水の中を覗いたような透明感があります。水槽の深さは30cmほどですが、水槽の上に乗るのは意外と怖く、不思議な感覚が味わえます。当初は3月のオープンを予定していましたが、臨時休館があり、完成してから2か月間ほど調整を続け、6月2日によやくお披露目することが出来ました。

今では多くのお客さまからも好評を得て、すっかり当館の人気水槽に仲間入りしました。同じ魚たちでも違う角度から観察することで、新しい見え方や感じ方があり、魚たちを含めた水辺環境の素晴らしさをこれからも提供していきたいと思っています。



コンセプト



見る

魚たちを
真上
から見る



体験

水の上を
歩いている
ような体験



感じる

水源をイメージ
したような
湧水の青さ

水槽の仕様

- 【水槽名称】 水上散歩水槽
- 【大 き さ】 直径300cm、水深30～50cm(円柱状)
- 【水 量】 約3トン
- 【設置場所】 館内人ゾーン(人と魚の関わり)
- 【展示魚種】 ニシキゴイ・オイカワ・アブラハヤ
- 【展示開始】 2020年6月2日～



ENRICHMENT AWARD 2020

エンリッチメント大賞2020 グッドアイデア賞を受賞！

【エンリッチメント大賞とは】

「エンリッチメント大賞」は、動物園・水族館に対する社会的な意識を高め、環境エンリッチメント(飼育動物たちの生活環境を豊かにする様々な工夫・試み)を推進するため、市民ZOO ネットワークにより2002年度に創設され、今回で第19回目を迎えました。当館では、「ミヤコタナゴの人工産卵床の開発および展示水槽への設置」という取り組みに対して、グッドアイデア賞を頂きました。

【相模川ふれあい科学館での取り組み】

ミヤコタナゴは関東地方のみに生息する淡水魚です。しかし現在では、その生息域はごく一部の地域に限られ、絶滅が危惧されています。そのため水族館などでは、その保全に取り組んでいます。飼育下で繁殖をさせることは、技術的にできるものの、方法により絶滅危惧種である淡水性二枚貝を必要とする場合や、親魚に人為的な選択が影響してしまう場合など問題点もありました。これらの問題を解決すべく、安価な器具で製作・設置した人工産卵床を用い、自然な繁殖行動を引き出し、実際に繁殖にも成功しました。また、水族館における魚の繁殖では、バックヤードなどにある予備水槽などを用いて実施されることが多く、展示水槽の魚たちは繁殖の機会を得られない場合があります。このような飼育繁殖に関する問題を解決し、少ない設備の中とエンリッチメントの側面から、展示している個体に対しても、繁殖の機会を与えていくことが、水族館などでの種の保存を考えていく上で、重要ではないかと考えるようになりました。生き物たちが本来の姿を見せてくれるよう努めることが、普及啓発の面でも意義のあることだと思います。今回の賞を糧に、更なる挑戦を続けていきたいと思っています。



ミヤコタナゴ
人工産卵床の設置



受賞盾



オンライン
授賞式の様子▼



地域連携

近隣の幼稚園・保育園・学校との取り組み

田んぼ体験 (田名幼稚園・友愛保育園・桑の実保育園)

近隣の田名幼稚園、友愛保育園、桑の実保育園の園児たちと一緒に、田植えや稲刈りを通じてお米作りの大変さ、食の大切さを学びました。屋外での体験ですが、密集しないように実施日を分けて行うなど、工夫をしながらの一年でした。すくすく育った稲は、今年も豊かな実りをつけてくれました。



花苗植え (友愛保育園)

当館では友愛保育園の園児たちと一緒に、相模原市まち・みどり公社が行なっている花のまちづくり・みどりいっぱい運動にも参加しています。毎年の春(6月)と秋(11月)に季節の花苗を専用の花壇に植えています。今回も色とりどりの花苗をみんなで植えて、綺麗な花壇ができあがりました！園児たちとみんなで作った花壇も見に来てくださいね。



総合的な学習の時間 生活科学学習

「目指せ相模川博士！」

相模原市立田名小学校 3年生

毎年、当館では、田名小学校との相模川を通した環境学習に取り組んでいます。しかし、今年は学校も5月末まで休校となり、実施出来るかどうか不安の中、学校の先生の熱意もあり、6月末の相模川での観察会から実施することができました。その後は、学校での出張授業などを行い、10月には2回目の相模川での観察会も行うことが出来ました。例年とは異なる形での対応もありましたが、東京大学の丹羽先生のご協力も得て、子供たちが相模川について自ら調べ、探求する機会が作れたことを協力施設として感謝する年となりました。



相模川観察会に参加して

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター
特任准教授 丹羽 淑博

今回、夏と秋の相模川観察会に初めて参加しました。海洋教育において、水族館は大きな役割を担いますが、学校の水族館の利用は、多く場合、社会科見学など単発的なものにとどまっています。それに対し、この観察会は、田名小学校3年の総合的な学習の時間の年間授業計画に位置づけられ、全国的に見ても水族館と学校との博学連携のユニークな取り組みになっています。

1回目の夏の観察会では、児童たちは川に入るのに最初は戸惑っていましたが、すぐに慣れ、好奇心のおもむくまま観察に没頭する姿が印象的でした。2回目の秋の観察会では、夏とは異なる生き物が見つかることに気づき、夏の生き物はどこに行ってしまったのか、川に流されてしまったのでは？といったように単なる観察から段階を進んで疑問や仮説を立てており、単発の観察会では得られない質の高い学びをする姿が印象に残りました。

さらに後日、児童から質問を受ける授業にも参加しましたが、江戸時代に魚はいたの？という質問をした児童が、人類が生まれる前から魚は

存在したという回答を受けて、じゃあどうして海があるの？という一気に本質的な質問を返したのには感動しました。また、魚はなぜ瞬きをしないのか？など魚の眼に関する質問が多くあり、子どもは普段から大人の目を下から見て感情をうかがっているから、そのような質問をするのだろうかとも考えさせられました。このような子どもの独自の視点から、水族館の展示や海洋教育が学ぶものが多くあることを気づかされました。

その他に、学校教員と水族館スタッフとが熱心にやり取りする姿も強く印象に残りました。'20年度から施行されている学習指導要領の重点に、学校が外部機関・講師を効果的に活用して独自のカリキュラムを編成する「カリキュラムマネジメント」がありますが、田名小学校と相模川ふれあい科学館との取り組みは、まさにこのカリキュラムマネジメントの先駆的な事例であり、これからの学校教育のモデルになるものと考えられます。

最後に、コロナ禍のさなか、このような貴重な観察会や授業に参加する機会を与えてくださった、相模川ふれあい科学館と田名小学校の皆様へ厚く御礼を申し上げます。



「相模川探検隊」

相模原市立田名北小学校 3年生

相模川や学校周辺の自然や生き物たちについて出張授業を行いました。当館へ見学に来ることが出来なかったため、写真だけではなく、生きている生き物たちも用意し、間近で観察してもらう時間も作りました。



「みんな生きている」

相模原市立田名北小学校 2年生



相模川や田名地区の自然について出張授業を行いました。生き物クイズや生き物たちの観察タイムなどを実施し、身近な自然について解説しました。

他団体・他機関 との連携

ミニ企画展示

「もっと知りたい相模の自然」

亀ヶ谷千尋

「もっと知りたい相模の自然」をテーマにした企画展示も今年で4年目を迎えました。相模原市は山や川にかこまれた自然ゆたかな地域です。相模川ふれあい科学館では、相模川の生き物を中心に色々な生き物を展示していますが、皆さんにご紹介したい生き物はまだまだたくさんいます。そういった生き物たちを、調査や研究・保全に携わる外部機関の方々のご協力を頂きながら、ミニ企画展示でご紹介しています。これからも、水の中の生き物に限らず、幅広い視野を持って、自然のなかの“面白い！”ことを伝えていけたらと思います。ご協力を頂いている皆さまには、この場をお借りして御礼申し上げます。

第13回
企画

ケガをした生き物を見つけたら

共同機関：神奈川県自然環境保全センター、
横浜市環境創造局動物園課、よこはま動物園ズーラシア、
野毛山動物園、金沢動物園

期 間：2020/6/2～10/25

概要 相模原市は、山や川などにめぐまれた自然ゆたかな地域であり、私たちのすぐそばでも多くの生き物たちが活動しています。身近に多くの生き物がいれば、傷ついた生き物と出会う機会もあります。神奈川県では年間約1,000点程度の傷病鳥獣が保護されています。どんな動物がどのような原因で保護されているのか、2018年度の神奈川県における保護実績をもとにご紹介しました。



第14回
企画

生きた化石 ムカシトンボ

共同機関：さがみはら水生動物調査会

期 間：2020/10/27～2021/1/12

展示生物：ムカシトンボ(幼虫)

概要 生きた化石ともよばれるムカシトンボは、清流にくらすトンボです。幼虫(ヤゴ)は冷たくて流れのはやい溪流で7～8年もの長い間を過ごします。ムカシトンボは相模川の上流でも見られ、毎年5月上旬から中旬ごろに羽化が確認されています。さがみはら水生動物調査会のみなさんにご協力頂き、ムカシトンボのヤゴを実際に展示しました。



調 査 ・ 研 究

調 査

相模川ふれあい科学館では、他機関との連携や調査・研究を通して、自然環境の把握や生態解明、普及啓発にも取り組んでいます。

小田原市メダカ生息調査 2020.6/19・10/13
(小田原市・酒匂川水系のメダカと生息地を守る会協力)

丹沢溪流魚調査 2020.10/16・10/22
(神奈川県水産技術センター内水面試験場協力)

研 究

エンリッチメント大賞2020 受賞者講演

2020.12/5
演 題：「ミヤコタナゴの人工産卵床の
開発および展示水槽への設置」

講演者：波多野順
日本水族館協会 第1回水族館研究会(オンライン発表)
2021.3/15

発表演題：「ミヤコタナゴの人工産卵床の
開発および展示水槽への設置事例」

発 表 者：○波多野順・竹本淳史・亀ヶ谷千尋・
西田征晃・山田一輝

発表演題：「ベンケイガニ科2種の
飼育下における摂餌率について」

発 表 者：○竹本淳史・波多野順・亀ヶ谷千尋・
西田征晃・山田一輝



小田原市メダカ生息調査



丹沢溪流魚調査

イルミネーション

公益社団法人 相模原市観光協会
代表理事 加藤 明

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に翻弄された1年で、市内のイベントは軒並み中止を余儀なくされましたが、「アクアリウムさがみはらイルミネーション」はおかげさまで無事に実施することができました。

黄金・青・白を基調としたイルミネーションが、科学館正面建物や橋の欄干、市民から寄贈された高さ10mのモミの木をはじめ周りの木々にも装飾を施し、今年は新たにアーチ型のイルミネーションも登場し、冬の夜空を美しく彩りました。

今回は「コロナ禍」での実施ということで、点灯式は行われず、恒例の花火打ち上げは実施されませんが、静粛な夜空に神秘的なイルミネーションが闇夜を照らし、幻想的な世界を創り出しました。水面に映える“逆さイルミ”は必見。イルミネーションは、1月上旬まで水郷田名の冬の夜を美しく灯し続け、コロナ禍で疲れた人々の心を癒しました。



特別企画展

ねずみ展

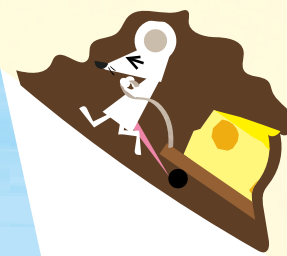
～ミーたちじつは仲間～

コビトハツカネズミ



地中から樹上まで、 最も繁栄している哺乳類！？

ネズミの仲間は世界に1,000種以上が知られており、水中を利用するものから、木々を滑空するものまで、その生態も様々です。ネズミは私たち人間にとって、ネズミは穀物などを荒らす厄介な生き物でもあり、ペットやキャラクターとして親しまれる身近な生き物でもあります。“ねずみ展”では、身近なところから世界にいたるまで、色々なネズミの仲間を紹介しました。



スナネズミ



ドブネズミ



スナネズミ



テンジクネズミ



アメリカビーバー



アメリカビーバー



コビトハツカネズミ

企画者
コメント
Comment

展示飼育部
亀ヶ谷千尋

水族館なのにネズミ!? そうなんです。相模川ふれあい科学館の企画展は自由なのです。生き物の面白さを伝えるのに種類など関係ありません! ということで、2020年ねずみ年にちなみまして、ネズミの仲間にスポットを当ててみました。ネズミは、野生の哺乳類の中で一番身近な存在です。ですが、その小ささから普段は存在を意識することは少ないと思います。“ねずみ”展でご紹介したのは、1,000種以上もいるネズミの仲間のうちわずか16種でしたが、それでも存在感があったのがアメリカビーバーです。平べったい尾に大きな水かき、ずんぐりとした体。ビーバーという名前は有名ですが、意外と実物を見る機会は少ないため、“カピバラ・・・?”という声も多々聞こえましたが、お腹を出して豪快に寝ている姿は来館者にもインパクトを与えたのではないのでしょうか?



デグー



オプトアレチネズミ



秋季特別企画展

くっつく 生き物展

～生きるための術～

トッケイヤモリ

様々なところで “くっつく”生き物

みなさんは、“くっつく”生き物を見たことはありますか？
建物にくっつくヤモリや、葉っぱにくっつくカエル、
川では流されないように石にくっつくハゼ、
海では自分よりも大きな生き物にくっつくコバンザメなどがいます。
くっつく生き物は、陸上、水中を問わず、様々な環境に適応しています。
くっつく生き物展では、そんな生き物たちが、どこで、
なぜ、どのようにくっつくかなど、
「くっつく」をテーマに生き物の様々な生態をご紹介します。

展示飼育部

西田 征晃

企画者
コメント
Comment

川や海での生き物観察の最中・・・

川では石の裏に、海では岩場などに生き物がくっついて
いる様子を見ることができます。

そんな時、「なぜこの生き物はくっつくことができるのだ
ろう」と素朴な疑問が浮かびました。その理由を調べてい
くうちに、自然界の様々な場所にくっつく生き物がある
ことがわかりました。

そこで今回は、くっつく生き物を陸、海、川のブースに
分けて展示することにしました。

展示した生き物の多くが腹側や足の裏などの、見え
にくい部位にくっつくための仕組みを持っているため、
そこをご覧いただけるレイアウトの作製を心がけました。
今回ご紹介した生き物以外にも自然界には数多くの
くっつく生き物があります。みなさんもぜひ、生き物が
くっつく仕組みを知ったうえで、生き物観察に出かけて
みてはいかがでしょうか。



ミスジマイマイ



ケープハイラックス



イトマキヒトデ



ヒラタドロムシ



ボウスハゼ



マダコ



イエアメガエル



フウセンウオ

特別企画展

ふぐ展

～笑う門にはフグきたる～

はまっ



ふくらむ！毒がある！？ 一風変わった魚・フグ。

フグという魚は私たち日本人にとっても馴染み深い魚で、食材としてだけでなく、その愛嬌ある見た目からも親しまれています。一方、フグは猛毒を持っていたり、腹鰭や肋骨が退化してなくなっていたりするものが多く、魚の中でも独特な進化をとげています。“ふぐ展”では、フグ目の魚の変わった特徴やその魅力についてご紹介しました。

ハリセンボン



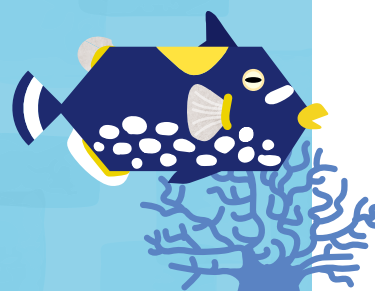
ヒゲハギ



トラフグ



ブロンズパファー



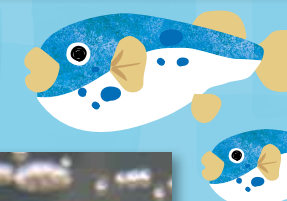
展示飼育部 亀ヶ谷千尋

企画者
コメント
Comment

みなさんは“フグ”というと、どのようなイメージがありますか？“美味しい”とか“毒がある”、“かわいい”など色々あると思います。私のイメージは“食いしん坊”、“かじる”、“表情豊か”です。フグには内臓を包む肋骨がないので、食べたら食べた分だけお腹がぶっくりと膨らみます。そして丈夫な歯で硬い貝殻も砕いてしまいますし、複数で飼育しているとお互いのヒレをかじってしまうこともあります。“ふぐ展”では海にすむフグの仲間から、川や湖にすむフグまで17種のフグの仲間をご紹介しました。大きな目でこちらをじっと観察し、その愛嬌ある姿で来館者だけでなくスタッフの心もつかんでいました。



ハリセンボン



釣ってみよう「ふくふくふく釣り」



サザナミフグ



ネズミフグ

マンスリー水槽

1月

ねずみどし



スナネズミ

2020年はネズミ年！ということで、砂漠など乾燥した地域に生息するスナネズミをご紹介します。大きな目としゃべり声の先で毛があるのが特徴です。

2月

幸せの赤い糸



レッドグラミー

バレンタインデーに合わせて縁結びの神社を再現して、赤い糸のような腹鰭をもったレッドグラミーを展示しました。

3月

梅もよう



ユメウメイロ

梅の花が春の訪れを感じさせる3月には、梅の実のような体色をもつ海水魚、ユメウメイロを展示しました。ゆらゆらと揺れる梅の枝と、その間を泳ぐ魚たちで、春の息吹を表現しました。

4月

臨時休館のためお休み

5月

6月

アジサイの季節



シリキルリスズメ、トールボツダムゼル

梅雨の時期の風物詩でもあるアジサイをテーマに、色鮮やかなアジサイの花びらに見立てて、シリキルリスズメとトールボツダムゼルを展示しました。

7月

ひまわり畑のおともだち



オレンジライヤーテールモーリー

ひまわり畑の、緑の葉に映える黄色い花をイメージして、オレンジライヤーテールモーリーという鮮やかなオレンジの体色とライヤー（竖琴）に似た尾が特徴の熱帯魚をご紹介します。

8月

涼やかな魚

トランスルーセントグラスキャット
インディアングラスフィッシュ

暑い夏を乗り切る工夫のひとつに“目で見る涼しさ”があります。そこで見た目も涼やかな、体が透明に透けている魚、トランスルーセントグラスキャットとインディアングラスフィッシュを展示しました。

9月

シー・ムーン



ミズクラゲ

空気が澄み、美しい月が見えるようになる9月では、月を名前に持つ生き物、「クラゲ（海月）」の仲間であるミズクラゲを、月に見立ててご紹介しました。

10月

おばけみたいな魚!?



ブラインドケープカラシン

ハロウィンのおばけにちなんで、のっぺらぼうのような魚“ブラインドケープカラシン”を展示しました。この魚は、光の届かない洞窟で進化したため、目が退化しています。

11月

紅葉の彩り



レッドプラティ

紅葉が見頃を迎える季節に合わせて、真っ赤に染まったモミジのような体色のレッドプラティを展示しました。

12月

キラキラ
ホワイトクリスマス

ダイヤモンドテトラ

ホワイトクリスマスでは、電飾と雪が共にキラキラと光る情緒あふれる景色になります。そこで鱗の一部がキラキラしている魚、ダイヤモンドテトラを展示し、水槽内にホワイトクリスマスを再現しました。

ミニトック水槽

口から水鉄砲!? テッポウウオ

生物種：テッポウウオ

期間：2019.12/26 ~ 2020.3 / 1



テッポウウオは、口から水を飛ばして水面上にいる虫などを打ち落とすことで知られています。実験では、実際にテッポウウオが水鉄砲を撃つ様子を見ながら、どのようにして水を飛ばすのかななどを解説しました。

赤い魚のひみつ!?

生物種：アカマツカサ、
キビレマツカサ、ユメウメイロ

期間：2020.6 / 2 ~ 9 / 29



海の中には赤い色をした魚がたくさんいます。赤はとても目立つ色ですが、青い色を通して赤い魚を見ると黒っぽく目立たない色になります。青い光しか届かないような深い海や岩陰では、赤い魚は地味な魚になるのです。

発電する魚! デンキウナギ

生物種：デンキウナギ

期間：2020.10/1 ~ 12/25



デンキウナギは、生き物の中で一番強い電気を出すことができる魚です。実験ではデンキウナギが餌を捕まえるために電気を出す様子を実際に観察しました。

水辺の生き物水槽



ニホンカナヘビ

2020年の水辺の生き物水槽では、タガメやゲンゴロウ、ニホンカナヘビやヒバカリといった、水辺で見られる生き物たちを多数ご紹介しました。
 本年では、新たな取り組みとして、ゲンゴロウ、シマゲンゴロウの繁殖にチャレンジしました。ゲンゴロウといえば水辺の昆虫を代表する生き物ですが、現在では両種ともに全国的に数が減っている絶滅危惧種で、各地で保全の動きが高まっています。
 当館では初チャレンジということもあり苦勞の連続でしたが、両種ともなんとか繁殖に成功することができました。その成果として、今までのゲンゴロウ水槽の横に新たに水槽をひとつ加え、繁殖させたシマゲンゴロウを展示しました。



ゲンゴロウ



シマゲンゴロウ



ヒバカリ

小川の実験観察テーブル



くつつく魚！ボウズハゼ

生物種：ボウズハゼ

丸い頭が特徴的なボウズハゼの得意技は、くつつくこと！吸盤状の口と腹ビレを使い、水の外に出て岩を登ることもあります。
 期間：2020.1/21～3/1



水に浮く草!?

● 生物種：浮葉植物(アサザ、ジュンサイ、ヒシ、ヒシモドキ)
 浮遊植物(イチョウウキゴケ、ウキクサ、オオサンショウモ、トチカガミ、ホテイアオイ) ●

川や池の中にも様々な植物が生えています。中でも一風変わっているのが、水に浮く草です。水に浮く草には、水底から生えて葉っぱが浮いている“浮葉植物”と、水面または水中を浮遊する“浮遊植物”があります。
 期間：2020.6/2～9/27

水をきれいにする貝!? シジミ

生物種：マシジミ、イシガイ、ヌマガイ、マツカサガイ

二枚貝の仲間に入水管から水とともに、餌となるプランクトンや浮遊有機物を取り込みます。実際に植物プランクトンや有機物を溶かした水を、マシジミが濾過する様子を観察しました。
 期間：2020.9/29～
 2021.1/12



Before



After

海の生き物水槽

「満月の夜にみつけるだんご」

生物種：ダンゴウオ



真冬の満月の夜に相模湾に出かけると、潮の引いた磯で丸くて小さなダンゴウオをみつけることができます。干満の差が大きくなる大潮はダンゴウオ観察のチャンスです。
 期間：2020.1/21～2/14

「海の中にも雨がふる」

生物種：アメフラシ、アムサアメフラシ



アメフラシは身の危険を感じると、紫色の煙幕を出します。煙幕が広がっていく様子は、まるでくもくと雨雲が広がっていくようです。
 期間：2020.2/15～3/1

「魚の模様の役割」

生物種：チョウチョウコショウダイ、ニシキテグリ、オイランヨウジ



縞模様や斑模様など、特徴的な模様を持つ魚について、その役割とともにご紹介しました。
 期間：2020.6/2～8/22

「片方だけ？ハサミの大きなカニ」

生物種：ベニシオマネキ



「カニ」は2本のハサミを持つのが特徴ですが、オスが片方のハサミだけが大きくなる、シオマネキの仲間についてご紹介しました。
 期間：2020.8/23～10/18

「性別が変わる魚」

生物種：クギヘラ



性転換をする魚について、その代表的な例を用いてご紹介しました。
 期間：2020.10/20～2021.1/12



収穫祭

田植え

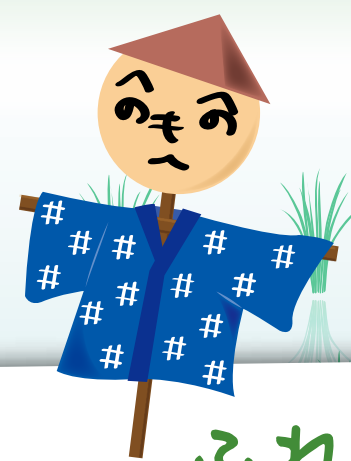
風選

脱穀

観察会

稲刈り

稲架かけ



ふれあい 田んぼ探検隊

展示飼育部 竹本 淳史

ふれあい田んぼ探検隊では、田植えに始まり観察会、稲刈り・稲架かけ、脱穀・風選、収穫祭とお米作りを一年通して体験しています。

今年は新型コロナウイルスの影響もあって、5月の田植えはスタッフのみで行いました。探検隊の活動が再開されてからも、例年よりも参加人数を少なくしたり、すべてを屋外で行うなど試行錯誤しながらの一年でした。

コロナ禍においても稲は元気に生長し、秋には例年と変わらない実りの風景を見せてくれました。

今年の活動の中で印象に残ったのが収穫祭です。これまでは室内で行っていたものを、田んぼの見渡せる広場でおにぎりをつくって食べるように変更しました。当日は秋晴れでとても気持ちがよく、これまで隊員たちが活動してきた田んぼの近くで自分たちが育てたお米を食べることが出来ました。ほんのささいなことかもしれませんが、おにぎりを食べながら、とてもうれしく感じていました。

ものづくり ワークショップ

営業・管理部 熊田奈津子

昨年よりワークショップ担当になり、はや2年がたちました。2020年は臨時休館や人数制限など、様々な制限のある中での開催でした。その中でも「楽しかった!」「次はこれをやってみたい!」「またやりたいです!」などなど、みなさまの喜びのお声や笑顔にとっても励まされました。ご参加されたみなさまに楽しんでいただけたことや、作っている中での発見があることは、ワークショップ担当としてとても嬉しい限りです。

ものづくりワークショップは小さなお子様から大人の方までどなたでもご参加いただけます。ご来館の際は、是非多目的室2へ遊びに来てくださいね!

ものづくりワークショップ一覧(2020年1月~12月)

空を泳げ!いきもの風づくり	1月1日(水)~1月26日(日)の土日祝日 (冬休み期間 1月1日~1月5日は毎日開催)	有料
ブンブンこま	1月6日(月)~2月14日(金)の平日	無料
水辺のランタン	2月1日(土)~3月1日(日)の土日祝日	有料
とびだすいきものカード	2月18日(火)~2月28日(金)の平日	無料
おさかなスタンプ	6月2日(火)~7月31日(金)の平日	無料
たまごでフィッシュ	6月6日(土)~7月12日(日)の土日	有料
ゆらゆら水族館	7月18日(土)~8月31日(月) (夏休み期間 8月1日~8月31日は毎日開催)	有料
おさかなくるくる	9月1日(火)~10月30日(金)の平日	無料
いきものエコバック	9月5日(土)~10月11日(日)の土日祝日	有料
もみもみおさかなせっけん	10月17日(土)~11月23日(月)の土日祝日	有料
水辺のオーナメント	11月4日(水)~12月25日(金)の平日	無料
スノードームすいぞくかん	11月28日(土)~12月20日(日)の土日	有料

さがみかわ 相模川の ともだち

写真家の伊藤さんが撮影した、相模川にくらす様々な生き物の写真を展示しています。その季節ならではの生き物のあんな姿こんな姿が見られるかも…?

相模川のともだち一覧(2020年1月~12月)

1月 ジョウビタキ	7月 オオトリノフンダマシ
2月 カシラダカ	8月 マメコガネ
3月 臨時休館のため	9月 ネコハエトリ
4月 展示なし	10月 カワウ
5月	11月 ワタムシ(種不明)
6月 アオイトトンボ	12月 カイツブリ

コロナ禍の科学館

2020年度は新型コロナウイルス禍での運営となりました。緊急事態宣言により3月3日(火)より臨時休館となり、4月に入っても再開の目途がたたない状況でしたが、ようやく6月2日(火)より新年度がスタートしました。再開にあたり3密(密閉、密集、密接)を回避する館内の受入態勢を整えて参りました。具体的には、スタッフはマスクやフェイスシールド、手袋の着用、受付カウンターやものづくりワークショップの受付ではアクリル板を設置しました。館内では、換気設備の稼働、空気清浄機の設置し定期的にCO₂濃度を測定、開放できる窓や扉は常時開放、また館内各所の定期的な消毒を行いました。運営面では、定数を越えた場合の入館人数の制限、ものづくりワークショップの参加人数の制限や、展示装置の稼働台数の制限をしました。また、飼育解説イベントを平日限定の開催などに変更して、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策としました。多くのお客様がご入館される際や、ものづくりワークショップの運営では、整理券を配布することにより、お客様の館内滞在中のスペース確保にも注力しました。ご来館のお客様に手指消毒や他のお客様との間隔を置くなどのご協力をいただき、感染者ゼロの館内運営を実施することができましたことに感謝いたします。



営業再開のご案内(広報さがみはら)



解説イベントは3密を回避して実施



定期的な館内展示装置のアルコール殺菌



入館口前の手すりも念入りに消毒



ミニトークでは間隔をとって説明



受付カウンターではアクリル越しのご案内



足跡マークを目印にお並びいただきます



館内出入口にてアルコール消毒

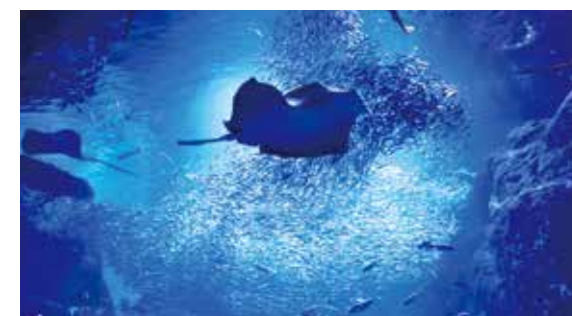


市役所応援職員による入館時のご誘導

運営会社のご紹介

2014年1月より、相模原市から指定管理業務を受託させていただいております株式会社江ノ島マリンコーポレーションは、下記水族館の運営業務も行っております。

新江ノ島水族館



相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションに立地する「新江ノ島水族館」は、“わくわくドキドキ冒険水族館”をコンセプトにしています。

新江ノ島水族館
ENOSHIMA AQUARIUM
<http://www.enosui.com/>

世界淡水魚園水族館 アクア・トトギフ



日本や世界の淡水域に生息する生物を紹介している「世界淡水魚園水族館 アクア・トトギフ」は、岐阜県によって整備され環境学習体験を実践する場として親しまれています。

世界淡水魚園水族館
アクア・トトギフ
<http://aquatotto.com/>

■アクセス Access



電車
バス
ご利用

JR横浜線 相模原駅より
神奈川中央交通バス「ふれあい科学館前」バス停下車すぐ

車を
ご利用

国道16号線

相模原駅入口

国道129号

上溝バイパス

上溝

上溝バイパス

県道503号

県道54号

相模川
ふれあい
科学館

相模川
ふれあい
科学館

■入館料金 (税込)

区 分	個 人	年間パスポート	団体 (20名以上)
大人 (高校生以上)	450円	1,350円	360円
小人 (小・中学生)	150円	450円	120円
シニア (65歳以上)	220円	660円	170円
幼児 (小学校就学前) 障害者と同伴者1名※ ひとり親家族等※	無料		

※については、入館時に証明できる各種証明書のご提示が必要です。

お得な年間パスポート

年間パスポートは当日券3回分の料金です。
ワークショップの割引もあります。



- 開館時間 9:30～16:30
イベント開催等により営業時間変更の場合あり
- 休 館 日 月曜日 (月曜日が祝日等の場合は開館)
ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション
【第一種動物取扱業の実施に係る提示】氏名又は名称：相模原市 事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館 事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1 動物取扱業の種別：展示 動物取扱業の登録番号：生衛 第204-00012号 登録年月日：2014年3月10日 登録の有効期限の末日：2024年3月9日 動物取扱責任者の氏名：竹本 淳史



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
TEL.042-762-2110 FAX.042-761-2665
<https://sagamigawa-fureai.com/>

相模川ふれあい科学館

検索